

大学生の日常生活について

～お金と時間の使い方～

今 若菜（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. はじめに

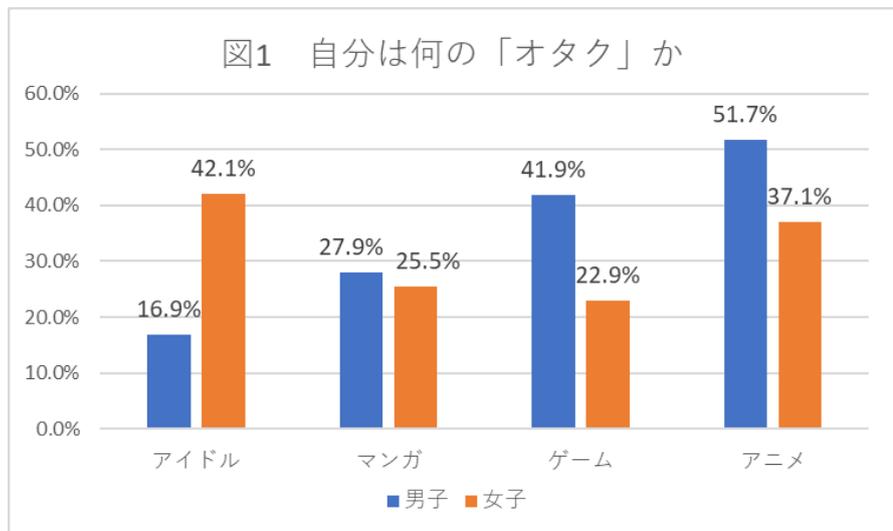
高校生から大学生になり環境が大きく変化し、それに伴って時間やお金の使い方にも大きな変化が生じる。大学生になり、自由な時間が増えることで、活動範囲が広がり、時間の自由度が増すと考えられる。例えば、授業を自由に選択でき自分で時間割を組むことで時間の確保ができ余裕が生まれる。それに合わせ、アルバイトなどを始めることで新たな収入源が増えることやアルバイトをする時間が増え収入が増加するということがあげられる。実際、全国大学生生活協同組合連合会の「第59回学生生活実態調査」では、9,873名中74.5%がアルバイトをしていると回答したという結果になっている。（全国大学生生活協同組合連合会、2024）

近年ではエンターテインメントや趣味の選択肢が広がり、それらにお金を費やす傾向が強まっている。

特に、代表的なものといえば「推し活」である。いまや、「推し」という存在は現在に、欠かせない存在であるといえる。例えば、実際にマイナビが行った「2024年卒大学生のライフスタイル調査」にある、「自分は何の「オタク」か」という質問項目においては以下の結果になっている。

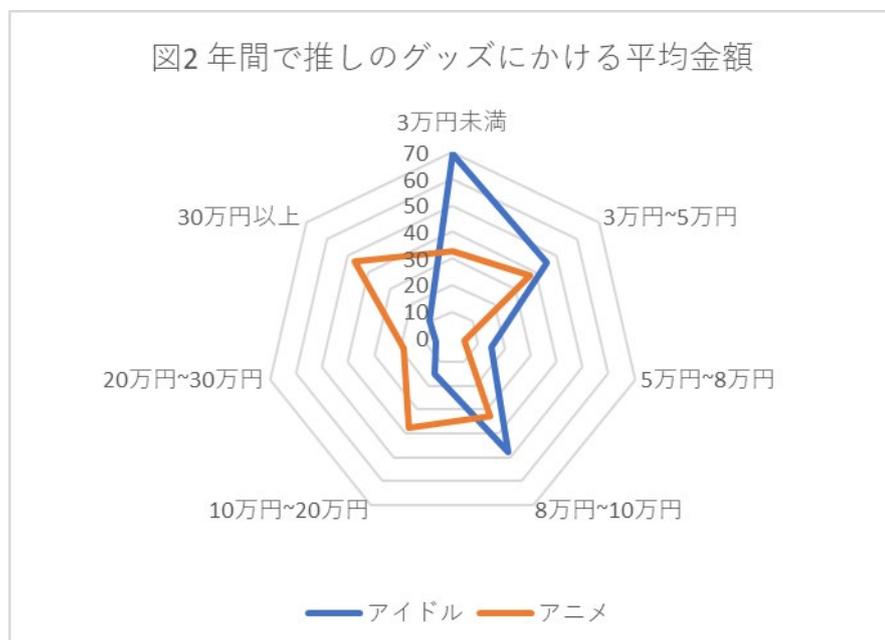
どの項目も、上位に「推し活」や「推し」に関する項目であると同時にお金を費やす項目が多くあげられる（マイナビ、2024）。

「推し活」や「推し」に関する項目であると同時にお金を費やす項目が多くあ



げられると述べたが、株式会社 Oshicoco の「押しグッズの消費行動に関する調査」では図2のような結果となっている。

1年間で押しグッズにかかる平均金額は3万円~5万円という結果であった。「アイドル部門」では、【3万円未満】の層が33%と最も多く、「アニメ部門」においては【30万円以上】の層が22.2%もあり支出が多いという結果であった。このこ



とから、図1であげられた項目はお金をより多く費やす項目が多くあげられるということがいえる。(株式会社 Oshicoco、2024)

これらのことから、高校生に比べ大学生は時間と収入の自由度が増加したとともに、時間とお金を使いすぎてしまう傾向にあるのではないかと考察した。

これらのことから、大学生は収入で得た金額の大半を消費し、お金が不足している状況にあるのではないかと考えた。

そのため、今回の調査では大学生の時間とお金の使い方に焦点を当てて、大学生の収入や消費行動の実態を明らかにすることを目的とする。大学生活という新しい環境において、大学生がどのように感じ、考え、どのように選択をしているのか、それぞれの価値観の変化について考察していく。

2. 調査研究の方法

2-1. 調査概要

本調査の実施概要は以下の通りである。

- ・調査時期：2024年7月16日~2024年7月20日
2024年7月23日~2024年7月30日
- ・調査対象：文教大学 湘南・越谷・あだちキャンパスの学生
- ・調査人数：標本数 1,329票（内不在 57票）
- ・有効回答数：250票 回答率 19.7%

2-2. 調査項目

調査項目は、大別して、<回答者に関する項目>、<回答者の「アルバイト」に関する項目>、<回答者の「暮らし方」に関する項目>、<回答者の「お金に関する項目」>、<回答者の「普段の生活」に関する項目>、<回答者の「将来」に関する項目>である。

2-3. 調査方法

- ・調査方法：層化抽出方法を用いて抽出したオンライン調査
- ・依頼方法：Google フォームでアンケートを作成した。サンプリングで抽出したメールアドレスにアンケートの URL を添付し、メールの送信を行った。
- ・サンプリング方法：学部ごとに層化抽出法を用いて行った。

表 1 各部割り当て詳細

キャンパス	学部	学科	学科別学生数	学部学生数	割合	割り当て数 (切り上げ)
湘南校舎	情報学部	情報システム	466	1249	78.0%	179
		情報社会	349			
		メディア表現	434			
	健康栄養学部	管理栄養学科	353	353	22.0%	51
合計			1602	19.1%	230	
東京あだち校舎	経営学部	経営学科	792	792	40.1%	114
	国際学部	国際理解学科	591	1183	59.9%	169
		国際観光学科	592			
合計			1975	0.0%	283	
越谷校舎	教育学部	学校教育	983	1617	33.5%	231
		発達教育	634			
	人間科学	人間科学	637	1811	37.5%	259
		臨床心理	551			
		心理	623			
	文学	日本語日本文学科	537	1399	29.0%	200
		英米語英米文学科	376			
中国語中国文学科		268				
外国語学科		218				
合計			4827	57.4%	690	
全合計			8404	8404	サンプル数	1203

※学籍番号からの推計学生数であり、実際の在 student 数とは異なる。

※卒業年次以降の学生や学籍番号が特殊な留学生は含まれない。

※ 割り当て数を元に、系統抽出の間隔を決定しているため、本表のサンプル数よりも、実際の標本数は異なる。

3. 調査結果

3-1. 回答者の基本属性&傾向

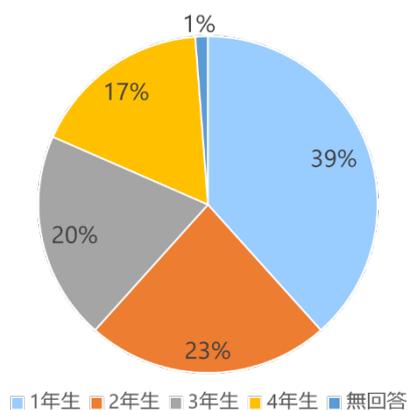
3-1-1. 回答者の性別

回答者 250 人の基本属性に関して、「性別」は、【男性】が 99 人(39.6%)、【女性】が 146 人(58.4%)、【無回答】が 5 人(2%)であった。

3-1-2. 回答者の学年

「学年」は、【1 年生】が 96 人(38.4%)、【2 年生】が 58 人(23.2%)、【3 年生】が 50 人(20%)、【4 年生】が 43 人(17.2%)、【無回答】が 3 人(%)であった。

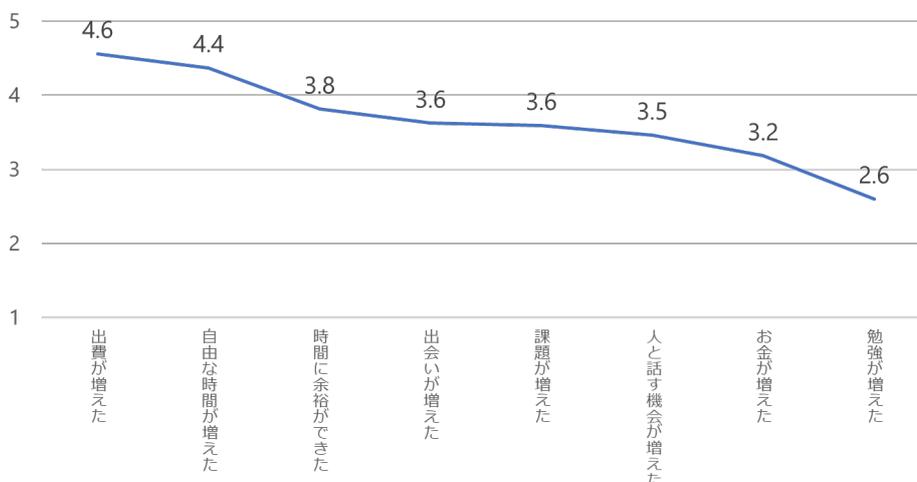
図 3 学年



3-1-3. 高校生から大学生になって変わったと思うこと

【勉強（時間）が増えた】という項目以外は、全て高校生から大学生になって変わったと感じている傾向にある。その中でも、【支出】【時間】に関する項目で平均値が高い。特に、時間について【出費が増えた】と【自由な時間が増えた】の項目で平均値が高い。これらの項目の平均値が上位にきていることもあり高校生から大学生への変化の中で時間については大きく変わったといえる。

図4 高校生から大学生になって変わったと思うこと



3-2. 収入の実態 1 暮らし方と収入

3-2-1. 回答者の暮らし方

回答者の「暮らし方」は、【1人暮らし】が64人(25.6%)、【実家暮らし】が186人(74.4%)であった。

3-2-2. 一人暮らしと実家暮らしの月の収入額の比較

上記で示した「暮らし方」別の「月の収入額」について比較を行った。

結果から、【一人暮らし】をしている人のほうが月に収入額が多いことが分かる。【一人暮らし】をしている人の「収入」で【9万円~11万円】の割合が20.3%と最も大きく、「実家暮らし」をしている人の「収入」は【1万円~3万円】の割合が19.4%と最も大きい。特に、極端に収入が少ない【1万円未満】は、100%が【実家暮らし】であった。このことから、暮らし方によって、収入の違いが大きく影響しているということが考えられる。

図5-1 暮らし方

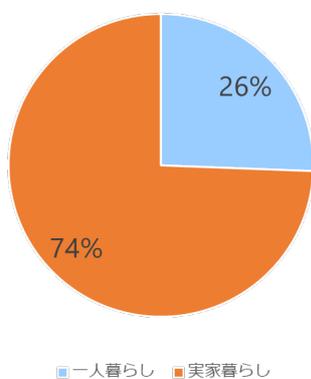
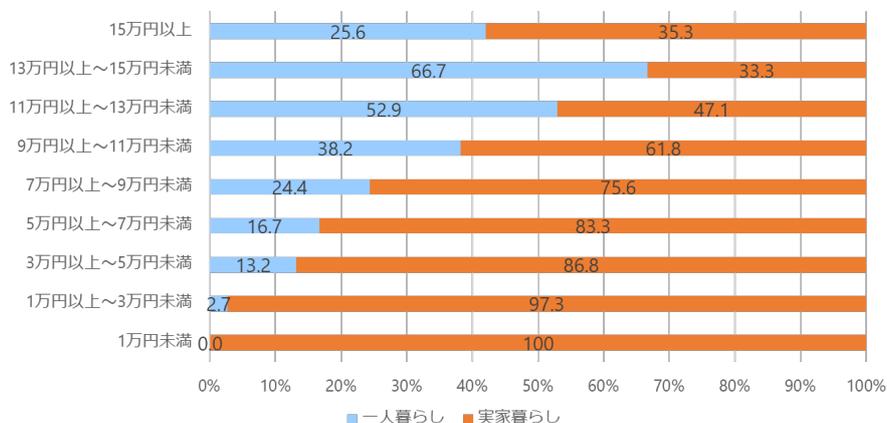


図5-2 暮らし方別の月の総収入

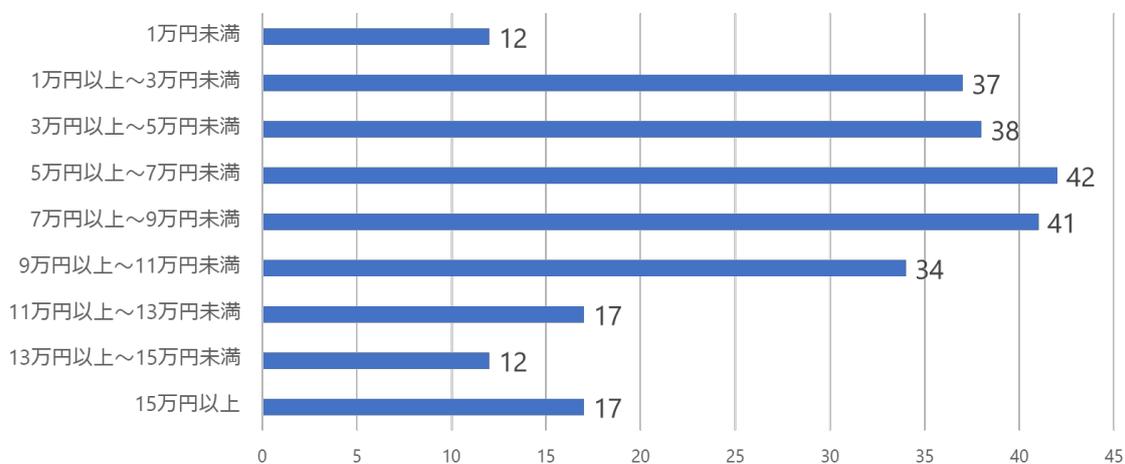


3-2-3. 回答者の月の収入額

回答者のアルバイト、仕送り、奨学金、お小遣い、その他を含めた「月の収入額」は、おおむね3万円以上35万円未満あたりで比較的に均等に分布しているようである。最も多いのは、【7万円以上～9万円未満】で64人*380' +、以下、【9万円以上～11万円未満】が63人*380' +などとなっており、7～11万円程度の収入を得ているものが多い傾向だ。

収入が極端に低い学生や高い学生も一定数存在し、それぞれの背景や状況による影響が大きいと考えられる。

図6 月の総収入



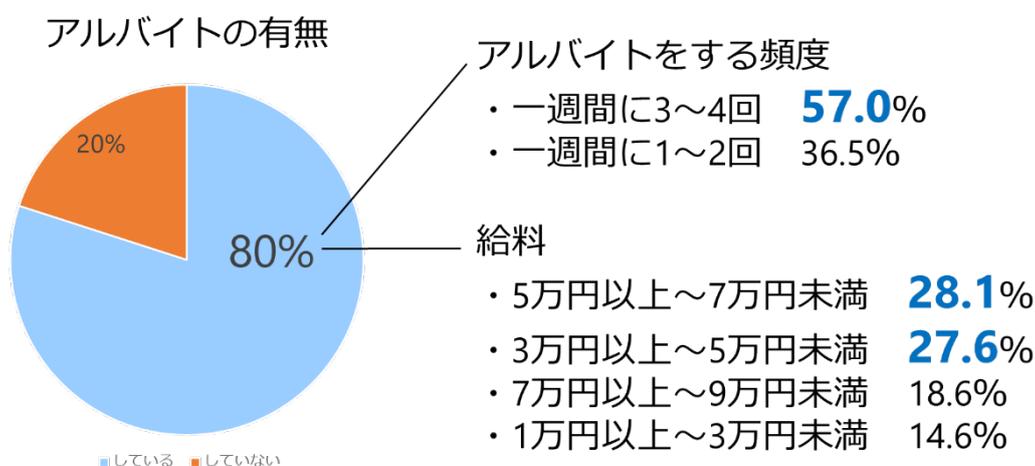
3-3. 収入の実態 2 アルバイトと収入

3-3-1. 回答者のアルバイトの有無

回答者の「アルバイトの有無」は、【アルバイトをしている】が200人(80%)、【アルバイトをしていない】が50人(20%)であった。

さらに、アルバイトをしていると回答した人で「アルバイトをする頻度」として【一週間に3~4回】が最も多く、次いで【一週間に1~2回】が多いという結果になった。「給料」では、【5~7万円】、次いで【3~5万円】が多いという結果になった。

図7 アルバイトの有無



3-3-2. 扶養についての認知度

回答者の「扶養についての認知度」は、【意識している】が166人(83.0%)、【意識していない】が25人(12.5%)、【扶養について知らない】が9人(4.5%)だった。

「扶養」の上限額である年間103万円を月計算した結果(月額のアバイト代の上限は約8万円)と上記にある月の給料の最も多い金額と約8万円を稼ぐのに必要な1週間に行うアルバイトの頻度(約3~4回)が重なっていることがわかる。

3-4. 収入の実態 3

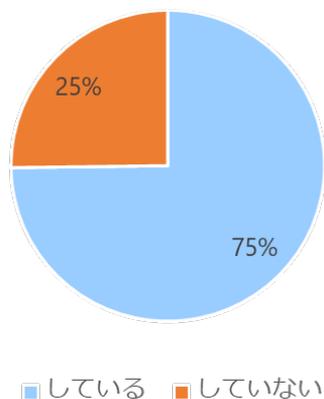
3-4-1. 回答者の奨学金の有無

回答者の「奨学金の有無」は、【奨学金を借りている】が97人(38.8%)、【奨学金を借りていない】が153人(61.2%)であった。

3-4-2. 回答者の貯金の有無

回答者の「貯金の有無」は、【貯金をしている】が187人(74.8%)、【貯金をしていない】が63人(25.2%)であった。

図8 貯金の有無



3-4-3. 趣味・娯楽で利用できる上限額と今まで使用した最高金額

「上限額」は、【1~2万円】の値が多く、「最高額」は、【1~3万円】の値が多いことがわかる。「最高額」においては【5~7万円】や【10~20万円】といった金額の高い項目も多い傾向にある。現時点では、アルバイトの収入と比較してお金が足りないという状況にあるということはいえない。

図9-1 利用できる上限額

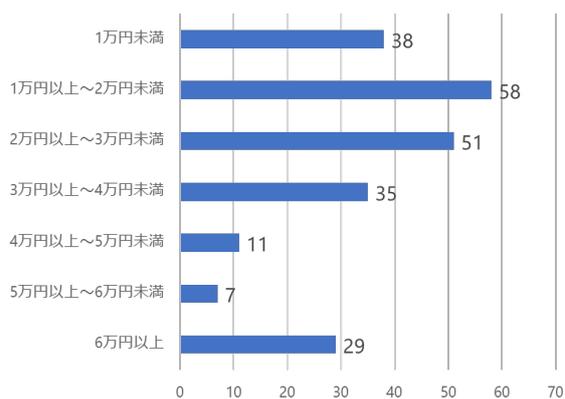
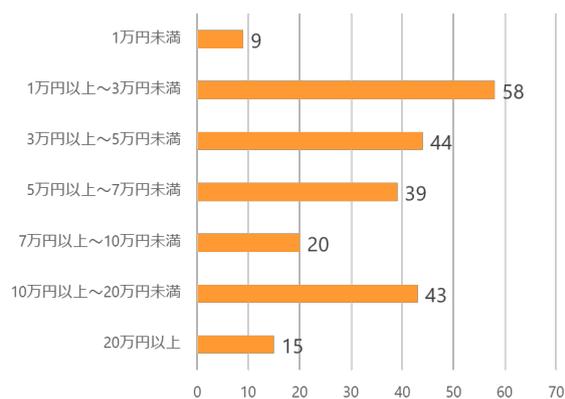


図9-2 使用した最高金額



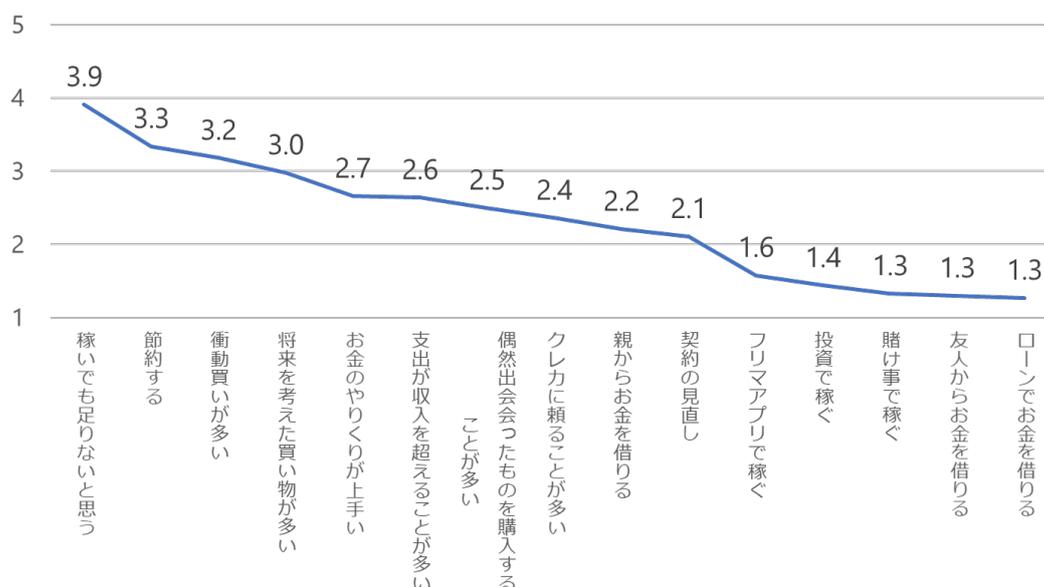
3-5. 意識 お金の使い方の意識と将来不安

3-5-1 お金の利用状態

ここでは「いくら稼いでも足りないと思う」「お金のやりくりが上手い」と思うなどのお金についての考え方や、「株や投資でお金を稼ぐことが多い」「クレジットカードに頼ることが多い」など、お金の使い方など、15項目について、5段階評定で尋ね、お金の「利用状態」を明らかにした。

全体としては、平均値の3を下回る項目が多いことが分かる。特に、お金を借りることやアルバイト以外でお金を稼ぐという項目の平均値は、低いことが分かった。【稼いでも足りない】という項目の平均値が3.9と高く出ており、仮説である、大学生はお金が足りないという状況にあるということが考えられるといえる。

図10 お金の利用状態

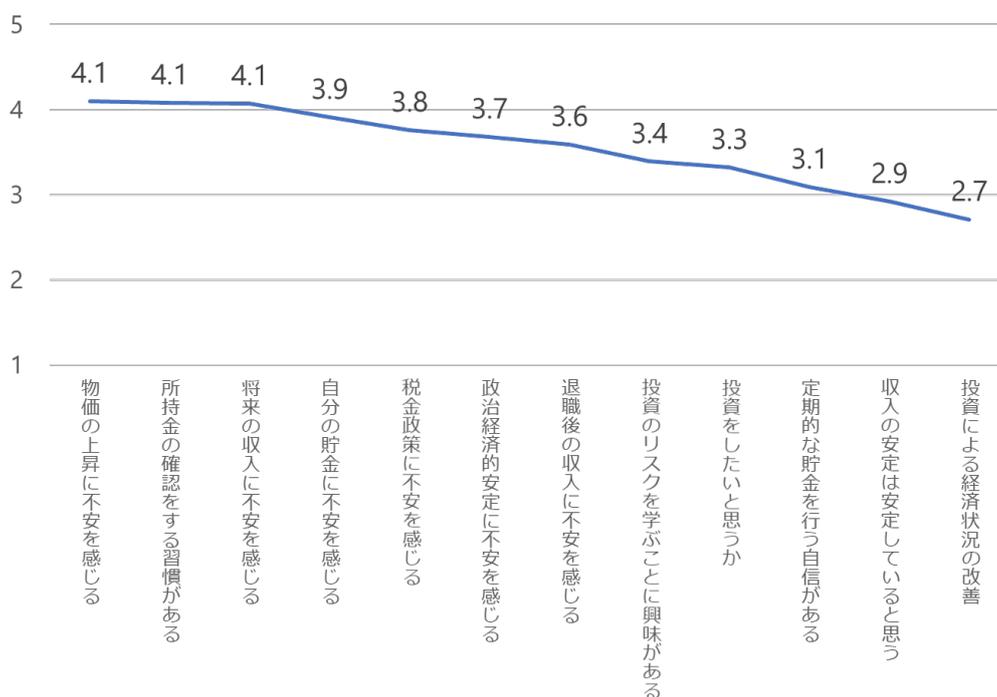


3-5-2. 将来のお金についての不安

ここでは「将来の収入に不安を感じる」「貯金に不安を感じる」などの自分のお金に関する項目や、「物価の上昇に不安を感じる」「税金政策に不安を感じる」など、世間一般の状況や政策に関する、12項目について、5段階評定で尋ね、「将来のお金についての不安」を明らかにした。

平均値に大きく差がないことが分かる。最も高い平均値としては【物価の上昇への不安】、【所持金への不安】、【将来の収入への不安】が挙げられる。それに対し、【投資】に関する項目への平均値が比較的到低い傾向であった。

図 11 将来のお金についての不安



3-6. 貯金行動に対する意識

どのような人が貯金をしているのか、を考察するために、「貯金の有無」といくつかの項目のクロス集計を行った。

表 2 は、「学年」、「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「遊ぶ頻度」の項目で分析したものである。

結果は、「学年」や「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「遊ぶ頻度」については、「貯金の有無」とは無関係であった。

唯一関連が見られたのは、「扶養に関する意識」であった ($X^2(2)=7.5, P<.05$)。データからは、扶養について【意識している】人は、8割近くが「貯金」行動を行っていることが分かる。

扶養への意識とは、アルバイト収入の上限に関する意識のことであるので、ここからアルバイト収入が多い人のほうが貯金をしている、ということであろう。

あるいは、実家暮らしの人が貯金をしていない、という傾向も推測できるかもしれない。

表 2 貯金行動に関するクロス集計表まとめ

	貯金している		貯金していない	
	N	有効パーセント	N	有効パーセント
1年生	71	74.0%	25	26.0%
2年生	46	79.3%	12	20.7%
3年生	37	74.0%	13	26.0%
4年生	32	74.4%	11	25.6%
一人暮らし	44	68.8%	20	31.3%
実家	143	76.9%	43	23.1%
奨学金 有	68	70.1%	29	29.9%
奨学金 無	119	77.8%	34	22.2%
意識している	132	79.5%	34	20.5%
意識していない	15	60.0%	10	40.0%
遊ぶ頻度 1回	47	71.2%	19	28.8%
遊ぶ頻度 2~3回	95	78.5%	26	21.5%
遊ぶ頻度 4~5回	32	68.1%	15	31.9%
遊ぶ頻度 6回以上	10	76.9%	3	23.1%

3-7-1. お金を多く消費する人はどんな人か 1 ～上限額～

月に利用できる金額はどのような人で違うのか、を考察するために、「月に利用できる金額」といくつかの項目のクロス集計を行った。

表 3 は、「学年」、「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「貯金の有無」、「遊ぶ頻度」の項目で分析したものである。

「学年」($X^2(18)=29.8, P<.05$)と「遊ぶ頻度」($X^2(24)=70.1, P<.01$)について有意な差が見られた。

結果からは、【5万円以上】の収入を得ているケースで、【3~4年生】が多く、【1年生】では【1~2万円】が多くなっている。このように学年が上がると、月に利用できる金額があがっていく。

また、【1回】、【2~3回】のケースで【3万円以下】が多く、遊ぶ頻度が多くなるにつれ月に利用できる金額が上がっていく。しかし、【6回以上】遊ぶというケースにおいては大きい変化は見られなかった。

このことから、学年が上がると収入が変動し、それに伴って遊ぶ頻度にも影響があるといえる。また、収入が多い学生ほど遊ぶ頻度が高くなる傾向があるといえる。もしくは遊ぶ頻度を多くしたいがために収入を増やしているともいえるかもしれない。一方で、貯金

や生活費などを重視している場合は遊ぶ頻度が低いと考えられる。

表3 消費行動に関するクロス集計表まとめ ～上限額～

	1万円未満		1万円以上～ 2万円未満		2万円以上～ 3万円未満		3万円以上～ 4万円未満		4万円以上～ 5万円未満		5万円以上～ 6万円未満		7万円以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
1年生	16	18.4%	32	45.1%	15	38.5%	15	62.5%	1	11.1%	2	25.0%	6	6.9%
2年生	11	20.4%	8	18.6%	18	51.4%	6	35.3%	4	36.4%	1	14.3%	6	11.1%
3年生	7	15.2%	9	23.1%	10	33.3%	7	35.0%	2	15.4%	1	9.1%	10	21.7%
4年生	4	10.3%	7	20.0%	8	28.6%	6	30.0%	4	28.6%	3	30.0%	7	17.9%
一人暮らし	4	6.9%	18	33.3%	15	41.7%	5	23.8%	3	18.8%	1	7.7%	12	20.7%
実家	34	19.9%	40	29.2%	36	37.1%	30	49.2%	8	25.8%	6	26.1%	17	9.9%
奨学金 有	9	10.3%	27	34.6%	20	39.2%	14	45.2%	7	41.2%	2	20.0%	8	9.2%
奨学金 無	29	20.4%	31	27.4%	31	37.8%	21	41.2%	4	13.3%	5	19.2%	21	14.8%
意識している	13	8.4%	36	25.5%	41	39.0%	24	37.5%	9	22.5%	6	19.4%	25	16.2%
意識していない	5	20.8%	4	21.1%	6	40.0%	4	44.4%	2	40.0%	1	33.3%	2	8.3%
貯金している	28	16.4%	47	32.9%	41	42.7%	25	45.5%	6	20.0%	6	25.0%	18	10.5%
貯金していない	10	17.2%	11	22.9%	10	27.0%	10	37.0%	5	29.4%	1	8.3%	11	19.0%
遊ぶ頻度 1回	19	30.6%	18	41.9%	12	48.0%	7	53.8%	2	33.3%	0	0.0%	4	6.5%
遊ぶ頻度 2～3回	18	15.9%	36	37.9%	26	44.1%	15	45.5%	3	16.7%	2	13.3%	13	11.5%
遊ぶ頻度 4～5回	0	0.0%	4	9.3%	13	33.3%	7	26.9%	5	26.3%	4	28.6%	10	23.3%
遊ぶ頻度 6回以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	60.0%	1	25.0%	1	33.3%	2	20.0%

3-7-2. お金を多く消費する人はどんな人か 2 最高額

今まで使用した最高金額はどのような人で違うのか、を考察するために、「今まで使用した最高金額」といくつかの項目のクロス集計を行った。

表4は、「学年」、「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「貯金の有無」、「遊ぶ頻度」の項目で分析したものである。

「学年」($X^2(18)=44.3, P<.01$)と「暮らし方」($X^2(6)=12.8, P<.05$)と「遊ぶ頻度」($X^2(24)=48.7, P<.01$)について有意な差が見られた。

結果からは、【7万円以下】のケースで【1年生】が多いく、学年が上がるにつれ「今まで使用した最高金額」があがっていくことがいえる。

また、【一人暮らし】、【実家暮らし】共に「月に利用した最高金額」は【10～20万円】が最も多くその他においては大きい変化は見られなかった。

「学年」が上がるほど、「収入」が増加し、娯楽や趣味などで「今まで使用した最高金額」が増加する傾向がある。また、「暮らし方」によっても支出状況が異なり、【一人暮らし】をしている人などは生活費や家具、家電といった費用に支出をし、【実家暮らし】の学生は趣味や娯楽に支出をされると考えられる。

表4 消費行動に関するクロス集計表まとめ ～最高額～

	1万円未満		1万円以上～ 3万円未満		3万円以上～ 5万円未満		5万円以上～ 7万円未満		7万円以上～ 10万円未満		10万円以上～ 20万円未満		20万円以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
1年生	3	3.4%	30	34.9%	23	41.1%	17	51.5%	2	12.5%	9	64.3%	5	5.6%
2年生	4	7.7%	9	18.8%	8	20.5%	10	32.3%	4	19.0%	14	82.4%	3	5.8%
3年生	0	0.0%	13	28.9%	9	28.1%	5	21.7%	6	33.3%	6	50.0%	6	13.3%
4年生	2	5.1%	5	13.5%	3	9.4%	6	20.7%	8	34.8%	14	93.3%	1	2.6%
一人暮らし	1	1.9%	10	18.9%	16	37.2%	6	22.2%	2	9.5%	13	68.4%	6	11.1%
実家	8	4.6%	48	28.9%	28	23.7%	33	36.7%	18	31.6%	30	76.9%	9	5.2%
奨学金 有	2	2.3%	23	27.4%	17	27.9%	17	38.6%	7	25.9%	16	80.0%	4	4.7%
奨学金 無	7	4.9%	35	25.9%	27	27.0%	22	30.1%	13	25.5%	27	71.1%	11	7.7%
意識している	7	4.6%	36	24.8%	23	21.1%	31	36.0%	18	32.7%	30	81.1%	7	4.6%
意識していない	0	0.0%	8	33.3%	3	18.8%	4	30.8%	2	22.2%	5	71.4%	2	8.3%
貯金している	6	3.5%	47	28.5%	34	28.8%	31	36.9%	15	28.3%	28	73.7%	10	5.8%
貯金していない	3	5.3%	11	20.4%	10	23.3%	8	24.2%	5	20.0%	15	75.0%	5	8.8%
遊ぶ頻度 1回	6	10.5%	16	31.4%	9	25.7%	13	50.0%	3	23.1%	6	60.0%	4	7.0%
遊ぶ頻度 2～3回	2	1.8%	33	29.5%	26	32.9%	15	28.3%	11	28.9%	23	85.2%	4	3.5%
遊ぶ頻度 4～5回	0	0.0%	7	15.9%	9	24.3%	8	28.6%	4	20.0%	12	75.0%	4	9.1%
遊ぶ頻度 6回以上	0	0.0%	2	18.2%	0	0.0%	3	33.3%	1	16.7%	2	40.0%	3	27.3%

3-8. お金に対する消費行動や意識について

3-8-1. お金の利用状態

「いくら稼いでも足りないと思う」、「衝動的な買い物が多い」と感じている人はどのような人なのか、「お金に関する意識に」について考察したい。

そこで、「学年」、「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「貯金の有無」、「遊ぶ頻度」のそれぞれの項目を独立変数として、5段階評定で尋ねた。「お金の利用状態」を従属変数として、差があるか一元配置分散分析を行った。

表5で示したように、有意な差が見られたのは以下の通りである。

この結果から、「学年」によってお金に対する意識や利用状態に差があるといえる。

「お金を借りる」、「支出が収入を超える」といった項目に差が出ているため、大学生になったばかりの【1年生】などは金銭管理能力が低いと考えられる。一方で、学年が上がるごとに金銭管理能力が高くなっていると考えられる。

「暮らし方」では、【一人暮らし】の人は生活費などの管理が必要であるため、お金に対する意識が実家暮らしの人と比べて大きく違いがあると考えられる。【実家暮らし】の人は、自由に使える金額が多いため、衝動買いの傾向が強くなるのではないだろうか。

表5 お金の利用状態に関するまとめ

	学年	暮らし方	奨学金	扶養	貯金	遊ぶ頻度
稼いでも足りない	-	-	-	-	-	P<.05
衝動買い	-	P<.01	-	-	-	-
親からお金を借りる	P<.01	-	-	-	-	-
将来を考えた買い物	-	-	-	-	-	-
支出が収入を超える	P<.05	-	-	-	-	-
フリマアプリで稼ぐ	-	-	-	-	-	-
友人からお金を借りる	-	-	-	-	-	-
投資で稼ぐ	-	-	-	-	-	-
偶然会ったものの購入	-	-	-	-	-	P<.05
お金のやりくりが上手い	-	-	-	-	-	P<.01
節約する	-	-	-	-	-	-
賭け事で稼ぐ	-	-	-	-	-	-
クレカに頼る	P<.05	P<.05	-	-	-	-
ローンでお金を借りる	P<.05	-	-	-	-	-
契約の見直し	-	-	-	-	-	-

3-8-2. どんな人が、お金について不安を感じているのか

お金に対する不安を感じている人はどのようなのか、「お金の不安」について考察したい。そこで、「学年」、「暮らし方」、「奨学金の有無」、「扶養の意識について」、「貯金の有無」「遊ぶ頻度」のそれぞれの項目を独立変数として、「扶養についての意識」、「将来のお金への不安」を従属変数として、差があるか一元配置分散分析を行った。

表6で示したように、有意な差が見られたのは以下の通りである。

結果からは、「扶養について意識」が「お金の不安」へと関連しており、次いで「貯金の有無」と「遊ぶ頻度」が関連していることが分かった。

扶養を意識している人ほど、お金の不安を感じやすいことが考えられる。これは、扶養から外れた場合の経済的不安を強く感じているからではないだろうか。

「貯金」や「遊ぶ頻度」においても、貯金をしていない人や遊ぶ頻度が多くお金を使用している人が「お金の不安」があると考えられる。

収入と支出のバランスがお金の不安に対して影響を与えていると考えられる。

表6 お金についての不安のまとめ

	学年	暮らし方	奨学金	扶養	貯金	遊ぶ頻度
収入	-	-	-	P<.05	-	P<.01
投資したいか	-	-	-	P<.01	-	-
自分の貯金に不安	-	-	-	-	-	-
収入の安定	P<.05	-	-	-	P<.01	P<.05
投資のリスクを学ぶ	-	-	-	P<.01	-	-
物価の上昇	-	-	-	P<.05	-	-
定期的な貯金	-	-	-	-	<.001	P<.05
政治経済的安定	-	-	-	-	-	P<.01
投資による経済状況の改善	-	-	-	-	-	-
所持金の確認	-	P<.05	-	-	P<.01	-
税金政策	-	-	P<.05	-	P<.05	-
退職後の収入	-	-	-	P<.01	-	-
103万は少ない	-	-	-	-	-	-
扶養がなければ	-	-	-	P<.05	-	-
助けになっている	-	-	-	-	P<.05	-
上限額の増額	-	-	P<.05	-	-	-
友人と話す	-	-	-	P<.01	-	P<.05
政策への関心	-	-	-	P<.05	-	-

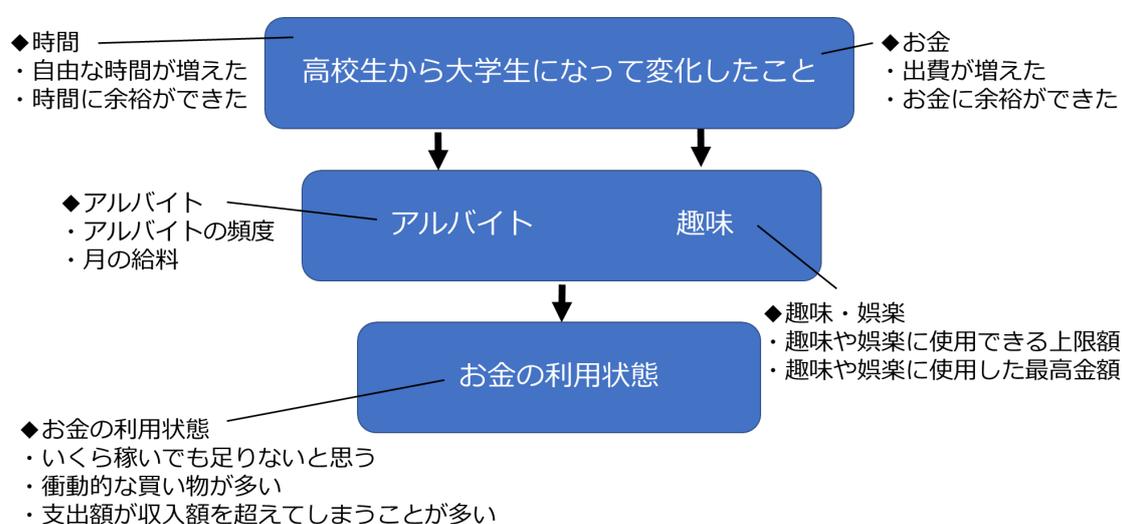
3-9. 重回帰分析を用いた結果(仮説 1)

私は、高校生に比べ大学生は時間とお金の余裕ができるお同時にお金が足りないという状況にあるのではないかと考察し、これらを仮説 1 とした。

仮説 1 の設計図として以下のものを示す。

この設計図は、時間やお金、アルバイト、趣味・娯楽などの要素が、お金の利用状態に影響を及ぼし、大学生の時間とお金の利用状態につながると考えて作成したものである。それが実際に検証できるか、分析を行った。

図 12 本調査の設計図



仮説 1: 調査結果

「お金の利用状態」(いくら稼いでも足りないと思う)に影響を及ぼす要因を探索するために、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数として、時間に関する 2 項目(自由な時間が増えた、時間に余裕ができた)、お金に関する 2 項目(出費が増えた、お金の余裕ができた)、アルバイトに関する 2 項目(アルバイトの頻度、月の給料)、趣味・娯楽に関する 2 項目(趣味や娯楽に使用できる上限額、趣味や娯楽に使用した最高金額)の 4 点を投入した。

「いくら稼いでも足りないと思う」という項目に、影響を与えた項目は、重回帰分析の結果、2 項目であった ($R^2=0.195$)。1 つは「出費が増えた」という項目 ($\beta = 0.368$) で、もう 1 つは「お金の余裕ができた」($\beta = -0.201$) であった。

R^2 の値は、0.195 とやや低い傾向で、モデルの適合性は低いが、以下のようなことが分かる。

影響を与えていた 2 項目は、「大学生になってから変化したこと」のなかでも、お金に関する項目である。

設計図に示した仮説では、アルバイト収入や趣味での支出が影響を与える、というもの

であったが、こうした収入の現状や支出が影響を与えたのではなく、高校から大学生への変化という生活の変化が影響を与えている。

生活の変化では、「時間の変化」についても挙げていたが、これらは影響を与えていなかった。

表 7-1 いくら稼いでも足りない

	標準化ベータ
出費が増えた	0.368
お金の余裕ができた	-0.201

R2=0.195

次に、「お金の利用状態」（衝動的な買い物が多い）に影響を及ぼす要因を探索するために、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数として、時間に関する2項目（自由な時間が増えた、時間に余裕ができた）、お金に関する2項目（出費が増えた、お金の余裕ができた）、アルバイトに関する2項目（アルバイトの頻度、月の給料）、趣味・娯楽に関する2項目（趣味や娯楽に使用できる上限額、趣味や娯楽に使用した最高金額）の4点を投入した。

「衝動的な買い物が多い」という項目に、影響を与えた項目は、重回帰分析の結果、3項目であった（R2=0.128）。「出費が増えた」という項目（ $\beta = 0.175$ ）、「時間に余裕ができた」という項目（ $\beta = -0.298$ ）、「趣味や娯楽に使用できる上限額」という項目（ $\beta = 0.218$ ）であった。

影響を与えていた3項目は、「お金」「時間」「趣味・娯楽」に関する項目である。

お金の余裕があると衝動買いが増えやすいが、時間に余裕があると衝動買いが減る傾向にある。このことから、金銭管理と時間管理のバランスが、消費行動に影響を与えると考えられる。

表 7-2 衝動買い

	標準化ベータ
出費が増えた	0.175
時間に余裕ができた	-0.298
趣味や娯楽に使用できる上限額	0.218

R2=0.128

次に、「お金の利用状態」（支出額が収入額を超えてしまうことが多い）に影響を及ぼす要因を探索するために、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数として、時間に関する2項目（自由な時間が増えた、時間に余裕ができた）、お金に関する2項目（出費が増えた、お金の余裕ができた）、アルバイトに関する2項目（アルバイトの頻度、月の給料）、趣味・娯楽に関する2項目（趣味や娯楽に使用できる上限額、趣味や娯楽に使用

した最高金額)の4点を投入した。

「衝動的な買い物が多い」という項目に、影響を与えた項目は、重回帰分析の結果、4項目であった ($R^2=0.176$)。「自由な時間が増えた」という項目 ($\beta =0.2$)、「時間に余裕ができた」という項目 ($\beta =-0.189$)、「お金の余裕ができた」という項目 ($\beta =-0.259$)、「月の給料」という項目 ($\beta =-0.282$)であった。

影響を与えていた3項目は、「お金」「時間」「アルバイト」に関する項目である。

自由な時間が増えると支出が増えるが、時間に余裕ができると計画的な支出ができることが分かった。また、「お金の余裕がある」「月の給料が高い」といった経済的に余裕がある人は支出が収入を超えにくいといえる。

表 7-3 支出額が収入額を超えてしまうことが多い

	標準化ベータ
自由な時間が増えた	0.2
時間に余裕ができた	-0.189
お金の余裕ができた	-0.259
月の給料	-0.282

$R^2=0.176$

仮説1のまとめ

これらのことから、共通して言えることは時間管理が消費行動に影響を与えるということである。「自由な時間が増えた」は支出を増やすことに影響しており、「時間に余裕がある」は計画的な支出に影響を及ぼしていることが分かった。また、経済的余裕があると支出管理ができるということもいえる。収入が少ないと、衝動買いや支出を超えるリスクが高まり、逆にお金の余裕がある人は、支出を超えるということが少ない。

共通していることではないが、衝動的な買い物に関しては「趣味・娯楽」との関連が強く、趣味や娯楽に使えるお金が多いほど、衝動的な買い物が増えるといえる。

「高校生に比べ大学生は時間とお金の余裕ができると同時に、お金が足りないという状況にあるのではないか」という仮説に関しては以下の通りである。

証明できる点としては3つあげられる。1つ目は、大学生は時間の余裕があり支出の増加につながっているという点。2つ目は、大学生は高校生より収入が増えるという点。アルバイトなどで収入が増えることで、一時的にお金の余裕を感じると考えられる。3つ目は、支出が増えるため、最終的に「お金が足りない」と感じるという点である。

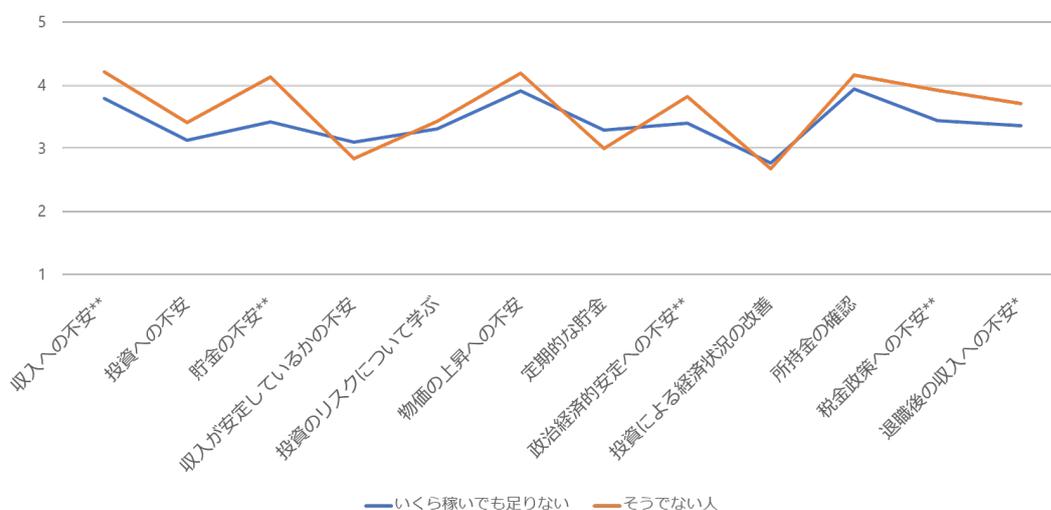
しかし、「収入の多さ」と「支出が超えてしまう」という関係についてはさらに分析が必要といえる。

3-10. お金が足りないと感じている人の不安(仮説 2)

仮説 1 のまとめとして示した「大学生は時間の余裕ができ、収入が増えることで一時的にお金の余裕があるが、支出が増えるため結果的にお金が足りないと感じやすい」に該当する人は将来へのお金の不安が大きくあるのではないだろうかと考えた。該当する人を、「稼いでも足りない」、該当しない人を「そうでない人」として、「将来のお金への不安」についての平均値を出した。

仮説 2: 調査結果

図 13 将来のお金への不安を感じている人のまとめ



結果からは、ほとんどの項目で「そうでない人」(オレンジ線)の方が、「稼いでも足りない」と感じる人(青線)よりも平均値が高く、このことから「そうでない人」の方が、「将来のお金への不安」を強く感じていることが分かった。特に、「収入への不安(t(244)=-2.91,p<.01)」と「貯金の不安(t(245)=-4.59,p<.01)」、「税金政策への不安(t(245)=-2.76,p<.01)」の項目が高い傾向にある。

「稼いでも足りない」と感じる人は、すでに一定の収入があるため、不安につながりにくいのではないだろうか。一方で、「そうでない人」は、収入が少ないため、不安に繋がっているとも考えられる。

今回の結果から、「お金が足りないと感じる」と「将来のお金への不安を感じる」とは必ずしも一致しないことが分かる。

仮説では、「稼いでも足りない」と感じる人の方が「将来のお金への不安」が強いと考えていたが、「そうでない人」の方が不安を強く感じているという結果になった。

4. まとめ

実態として、大学生は高校生と比較して自由な時間が増えたといえる。また、アルバイトをしていると回答した人は全体の8割で5~9万円稼ぐ人が多いということが分かった。しかし、同時に大学生はお金を使いすぎてしまう傾向にあり、お金の利用に関して我慢ができない、時間が増えたことで収入額を超えさせてしまっているという現状にあることが明らかになった。

それらに当てはまる人たちを対象に分析したところ将来のお金について不安は確かに感じているものの、お金を使いすぎてしまっている人以外が将来へのお金への不安が大きいということが分かった。

収入額の比較が高校生と大学生でできていなかったのも説得性をより強固なものにする材料として不足していたというのが本調査においての反省点であるといえる。

また、稼いでも足りないという点に関して「扶養」の問題が大きく関係していると考えられる。「扶養」を意識しているかという質問に対し名が意識していると回答している。実際、1週間に3~4回で月給が7~8万円、これらは「扶養」の上限額である103万円を月計算した結果と一致する。現在、政策でも話題になっているが最低賃金が上がっているのに対し「扶養」の上限額が変わらないため稼ぎたくても稼げないというものだ。この問題は大学生に大きく関わる。「扶養」の上限額問題がこれからどう変わっていくかが大きな分岐点であると考えられる。

参考資料

・全国大学生生活協同組合連合会、「第59回学生生活実態調査」(2024.3)

URL : <https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

・マイナビ、「2024年卒大学生のライフスタイル調査」(2024.11)

URL : https://career-research.mynavi.jp/research/20230214_44672/

・株式会社Oshicoco、「押しグッズの消費行動に関するアンケート」

URL : <https://eoo.today/media/2024/11/15/183592/>